

パノストの知識

目次

- ① パノストの種類
- ② パノストの部位名称
- ③ パノストの素材
- ④ パノストの歴史

① パノストの種類

*パノティストッキング

パンティ部とレッグ部からなるストッキングをパノティストッキングと呼びます。

*ストッキング

レッグ丈が太もも部までのストッキングのことで、太もも部に締め具がついたものをガーティストッキングと呼びます。

*オーバーニー

レッグ丈がひざ上部までのストッキングで、ひざ上ともいいます。

*ハイソックス

レッグ丈がひざ下部までのストッキングで、ショートストッキングともひざ下ともいいます。

*クルーソックス

レッグ丈が足首までのものをいいます。

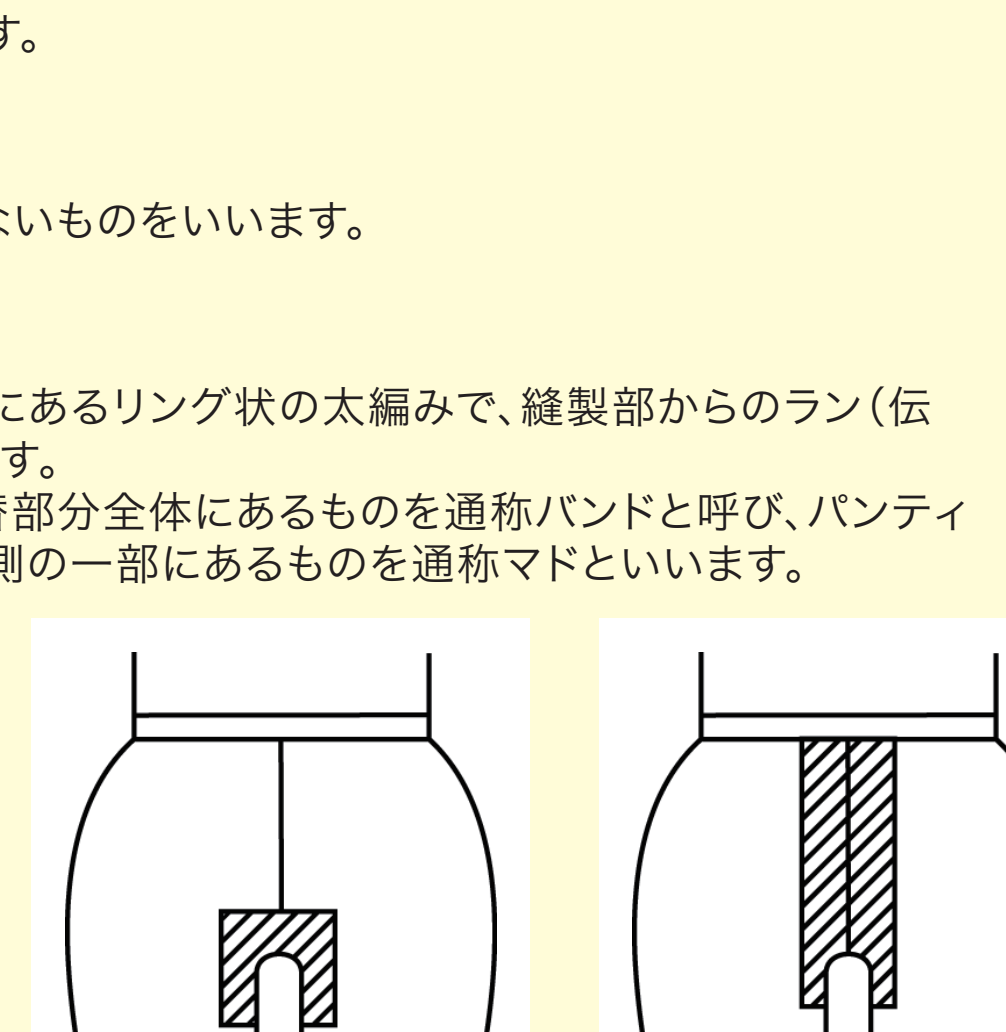
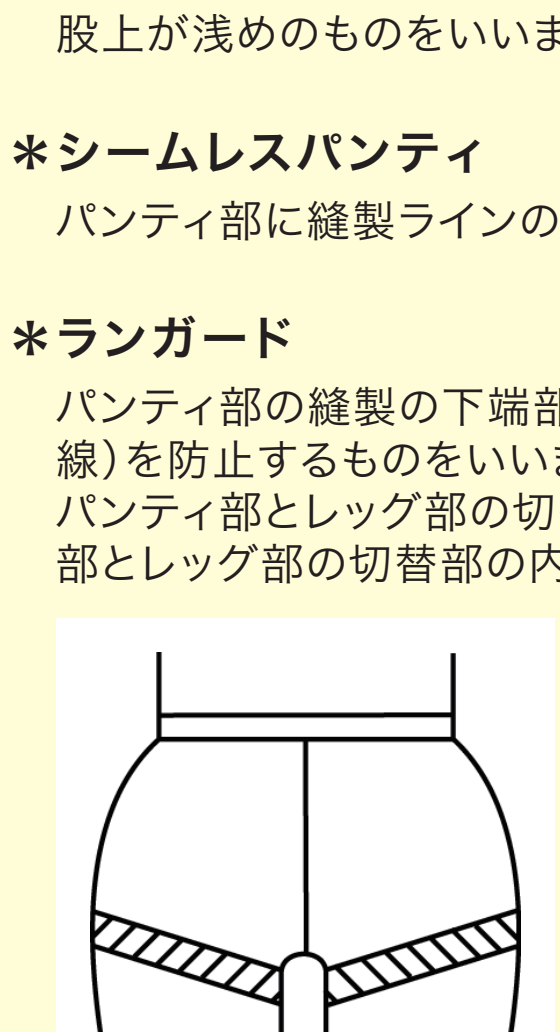
*タイツ

パンティ部とレッグ部からなる厚手のストッキングをいいます。

*ベッツ・フットカバー

つま先、足底、かかとを覆って靴の中に隠れるものをいいます。

② パノストの部位名称



ウェスト部

*ニットイン

ウェスト部にタデニールのスパンデックスを機械的に編み立てしたウェストのことをいいます。

*アウトゴム

ウェスト部にゴムテープを縫い付けたウェストのことをいいます。(特に高級パノストに多く使われます)

パンティ部

*パンティ切替

パンティ部とレッグ部の糸が切り替えられ、厚みの違うものをいいます。

*ヌード・スルー

パンティ部とレッグ部とが同じ糸で編まれ、切り替えがないものをいいます。

*立体編み

パンティ部の前後の編み方を変え、後側を伸びやすくしたものもいいます。(ヒップの丸みをつぶさずきれいに見えます)

*ヒップハンガー・ローライズ

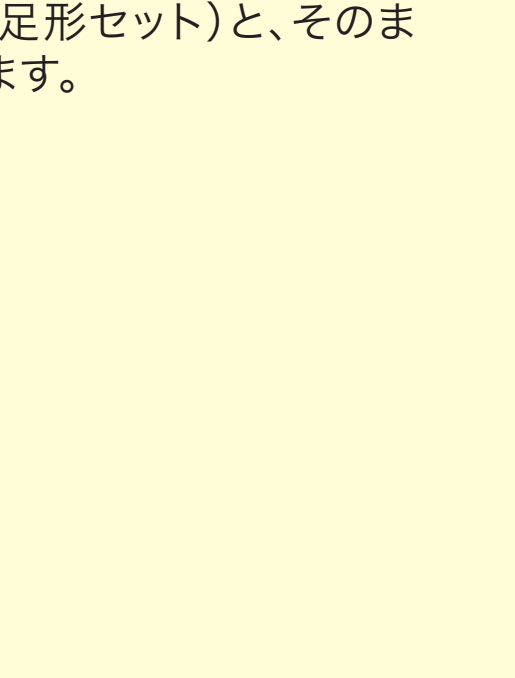
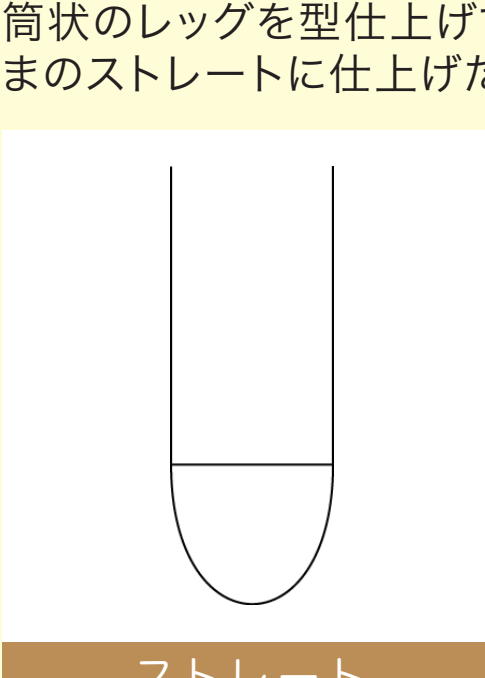
股上が浅めのものをいいます。

*シームレスパンティ

パンティ部に縫製ラインのないものをいいます。

*ランガード

パンティ部の縫製の下端部にあるリング状の太編みで、縫製部からのラン(伝線)を防止するものをいいます。パンティ部とレッグ部の切替部分全体にあるものを通称バンドと呼び、パンティ部とレッグ部の切替部の内側の一部にあるものを通称マドといいます。



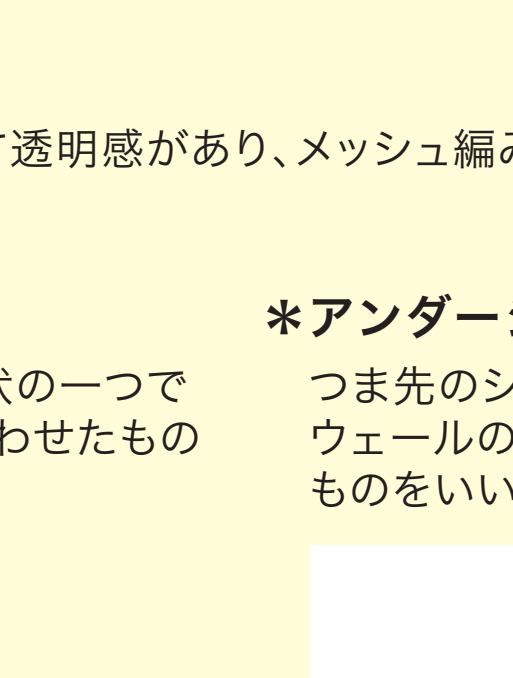
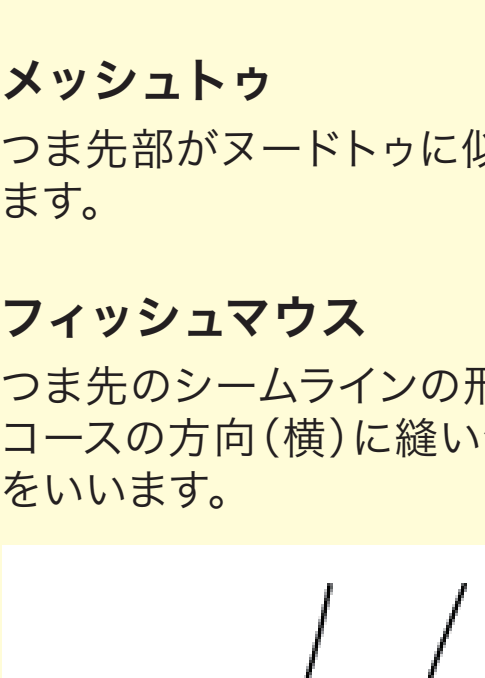
*フィンガーバンド

ヌードパンティ仕様でウェスト下部5cm程度切替を厚くしたものをいいます。(着用するときに爪での引っ掛け傷を防ぐために補強がしてある)



*ランガード

パンティ縫製の下端部に別の編地を縫い付けたものをいいます。菱形のものを菱形マチ(ダイヤマチ)、パンティ部を大きくするために全体又は後部に縫い付けたものを前後マチ・後マチといいます。別編地が綿糸のものを綿クロッチ、ナイロン糸のものをナイロクロッチといいます。



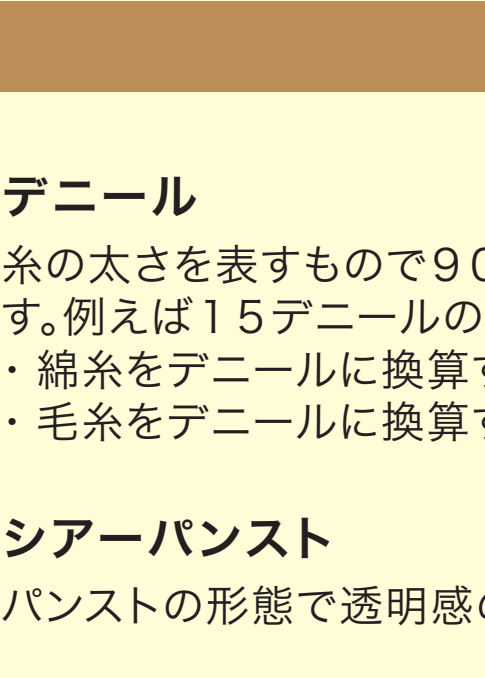
*シームライン

パンティ部にある縫製のラインで自動的にミシンで縫い合わせたものをオーバーロックシームといいます。手動ミシンでフラットに縫い合わせたものをフラットシームといい、縫い目のゴロツキを抑えます。

パンティ部

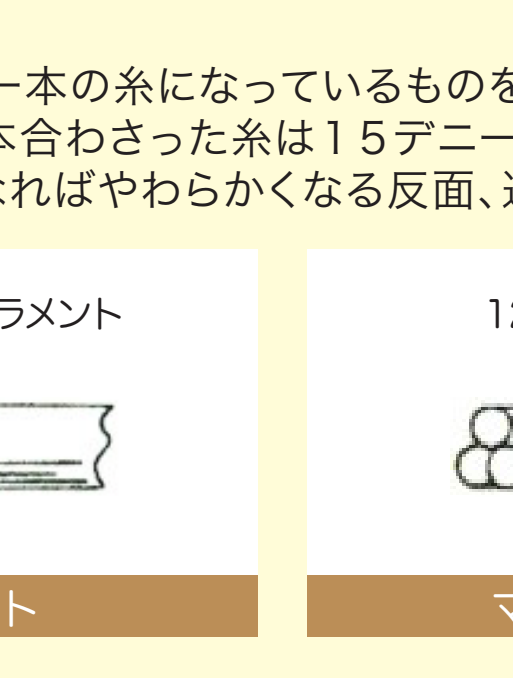
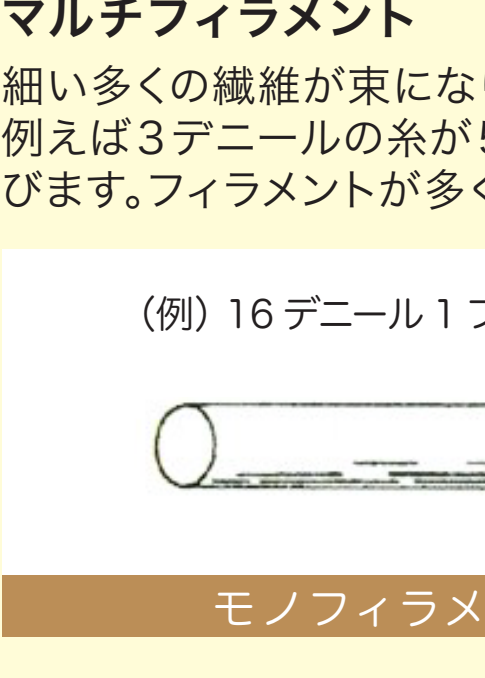
*コンベンショナル(コンベ)

靴下と同じ様に、かかとの形状に合わせてポケット状に編んだものをいいます。(かかと補強になっているもの)



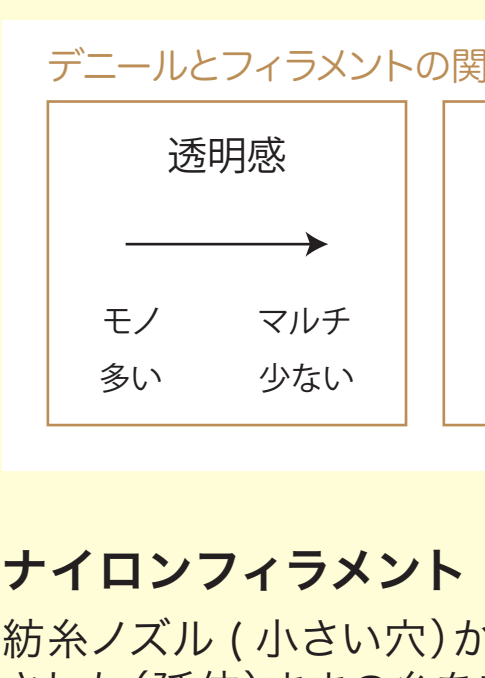
*チューブラー

かかとの形状に合わせず、筒状に編んだものをいいます。筒状のレッグを型仕上げてかかとの形状に上げたもの(足形セット)と、そのままのストレートに仕上げたもの(ストレートセット)があります。



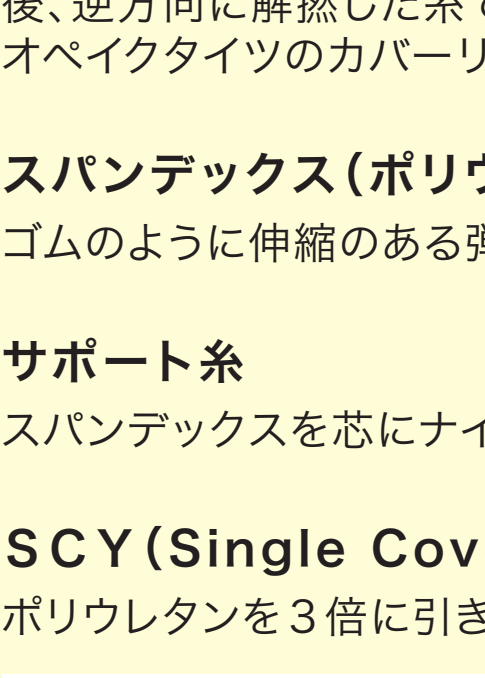
*ヌードトゥ・スルートゥ

つま先部がレッグ部と同じ糸で編まれ、切り返しがないものをいいます。サンダルを履いてもつま先がきれいにみえますが強度は弱くなります。



*トゥ切替

レッグ部とつま先部の糸が切替られ、厚みの違うものをいいます。つま先補強やつま先二重などともいい、スルーに比べると強度は増します。

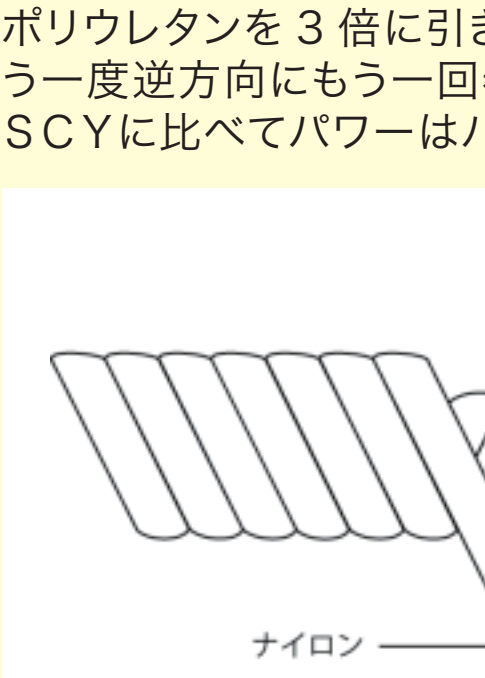


*メッシュトゥ

つま先部がヌードトゥに似て透明感があり、メッシュ編みになっているものをいいます。

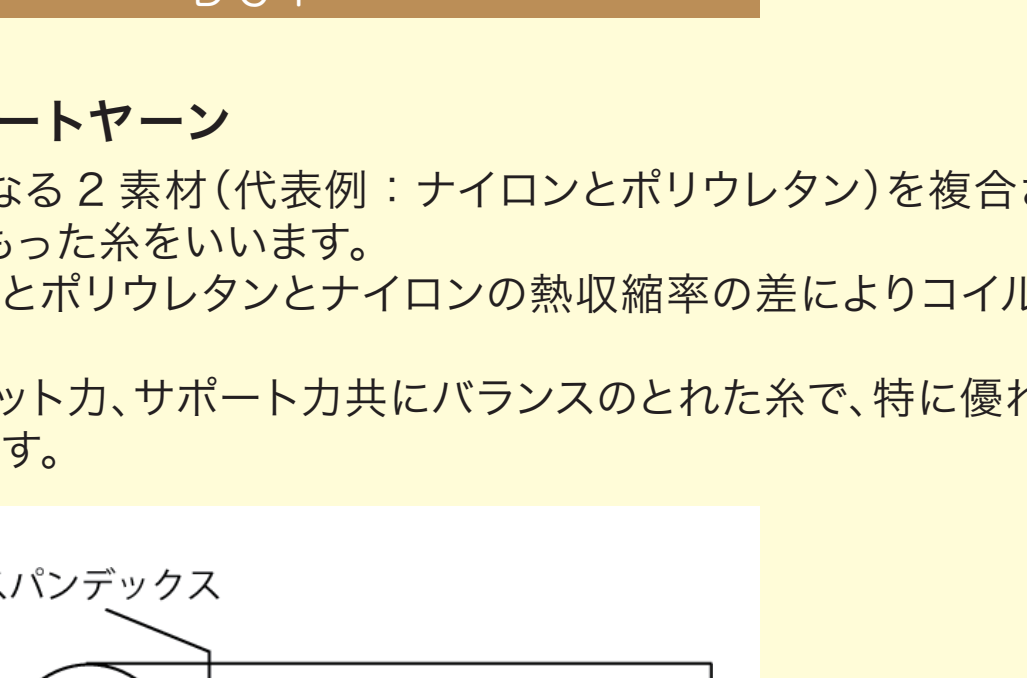
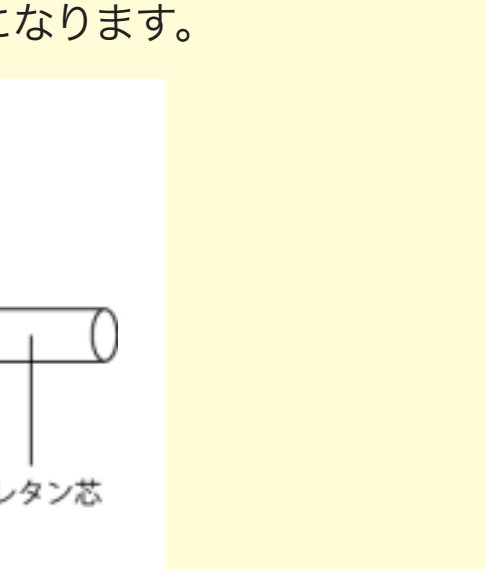
*フィッシュマウス

つま先のシームラインの形状の一つでコースの方向(横)に縫い合わせたものをいいます。



*アンダーシーム

つま先のシームラインの形状の一つでウェールの方向(縦)に縫い合わせたものをいいます。



③ パノストの素材

*デニール

糸の太さを表すもので9000mの長さで1gの重さの糸を1デニールといいます。例えば15デニールの糸であれば9000mで15gの重さになります。

・綿糸をデニールに換算する場合5314÷綿番手=デニール

・毛糸をデニールに換算する場合9000÷毛番手=デニール

*シアーパーノスト

パノストの形態で透明感のあるものをいいます。

*オペイクタイツ

パノストの形態で厚手のものをいいます。(一般に25デニール以上のものをいいます。)

*バルキータイツ

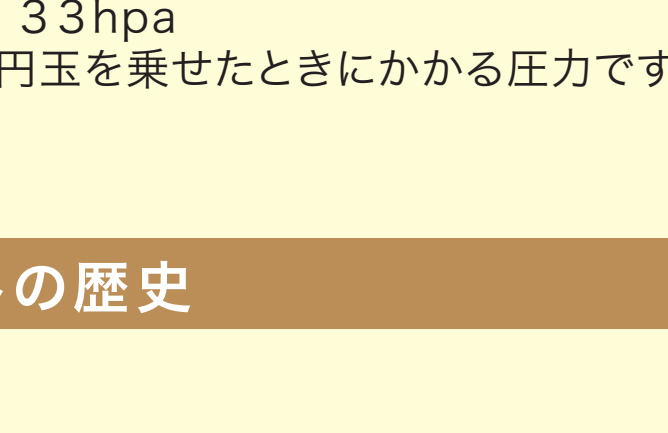
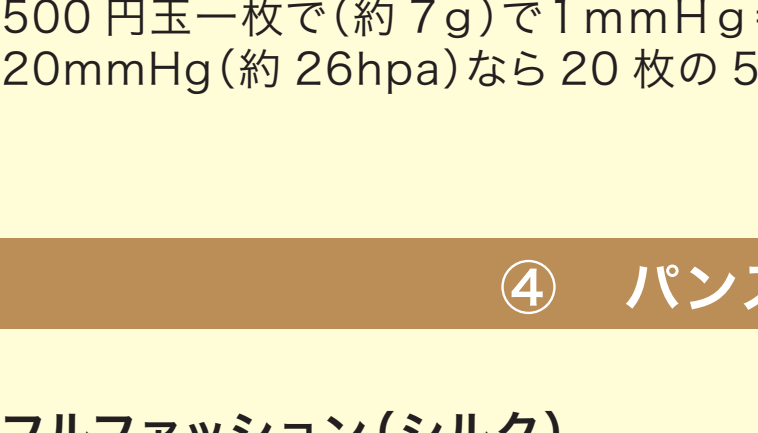
パノストの形態で毛混等の高いタイツをいいます。

*モノフィラメント

繊維束が一本で構成された糸をいいます。伸びが悪く硬い反面、透明感があります。

*マルチフィラメント

細い多くの繊維が束になり一本の糸になっているものをいいます。例えば3デニールの糸が5本合わさった糸は15デニールのフィラメントと呼びます。フィラメントが多くなればやわらかくなる反面、透明感は悪くなります。



*ハイマルチフィラメント

マルチフィラメントの一種でより多くの繊維が束になったものをいいます。(30Dの場合マルチで10本、ハイマルチで25本前後です。)

*マイクロファイバー

マイクロフィラメントの一種で構成本数が表示デニールよりも多いものをいいます。

デニールとフィラメントの関係(同じデニールの場合)			
透明感	ソフト感	丈夫さ	ひきつき発生
モノ 多い	マルチ 少ない	モノ 多い	マルチ 少ない

*ナイロンフィラメント

紡糸ノズル(小さい穴)から押し出され繊維状になり、必要な太さまで引き伸ばされた(延伸)ままの糸をいいます。通称生糸といいます。SCY、DCYのカバーリング糸、交編サポートの交編糸、ナイロン100%のパノストに使用されます。

*ウーリーナイロン

伸縮性、バルキー性を出すための加工した糸のことをいいます。ナイロン糸(生糸)に4000~5000回の熱風を加えた状態で加熱セットした後、逆方向に解熱した糸で伸縮に優れ、柔らかいソフトになります。オペイクタイツのカバーリング糸に使用されます。

*スパンデックス(ポリウレタン)

ゴムのように伸縮のある弾性繊維のことをいいます。

*サポート糸

スパンデックスを芯にナイロン等をカバーリングした糸のことをいいます。

*SCY(Single Covered Yarn)

ポリウレタンを3倍に引き伸ばした状態でナイロン糸を一回巻いた糸をいいます。

*DCY(Double Covered Yarn)

ポリウレタンを3倍に引き伸ばした状態でナイロン糸を一回巻き、その上からもう一度逆方向にもう一回巻いた糸をいいます。SCYに比べてパワーはハードで大変丈夫になります。

*コンジュゲートヤーン

耐熱性の異なる2素材(代表例：ナイロンとポリウレタン)を複合させ、それぞれの特徴をもった糸をいいます。熱セットするとポリウレタンとナイロンの熱収縮率の差によりコイル状の縮みが発生します。透明感、フィット力、サポート力共にバランスのとれた糸で、特に優れたソフト感をもっています。

*サポートパノスト

SCY、DCYの糸をレッグに使用したパノストのことをいいます。

*交編サポート

サポート糸とナイロン糸を交互に編んだものをいいます。SCY交編、DCY交編などがあります。サポート糸のフィット力とナイロンの透明感を兼ね揃えたものになります。太さの違う2種類の糸を使用するため横ジグザグがでます。

*ゾッキサポート

1種類のサポート糸で編まれたサポート糸100%のパノストをいいます。同じ糸で編まれているため生地に凹凸がなく見た目が美しくなります。滑らかな肌触りと優れたフィット力は抜群です。ただ交編に比べ透明感は劣ります。

*ブライト

ナイロン糸をつくる時につや消し剤を混合しない糸のことをいいます。つや消し剤をいれたものをダグと呼び、その中間をセミダグといいます。

*異型断面糸

ナイロン糸をつくる時に小さな穴のあいたノズル(口金)から溶解されたナイロンの原料が押し出されるため生地に凹凸がなく見た目が美しくなります。ノズルが三角であれば三角断面糸と呼び、光が乱反射し光沢がある素材になります。プライト糸で三角断面であればさらに光沢のある素材になります。他に五角断面糸、扁平断面糸(断面が長方形)、中空断面糸(断面がマカロニ状)などがあります。

*フレーティング

2本の糸を重ねて編んだものをいいます。表側にナイロン、裏側にSCYがきます。

*シネ

糸と同意語でPSでは染まりやすい糸と、そうでない糸を練り合わせて編み後に染色して空調にしたものをいいます。

*ヘクトパスカル(hpa)

圧力を表す国際単位で数字が大きくなるほど引き締める力は強くなります。500円玉一枚で(約7g)で1mmHg=1.33hpa、20mmHg(約26hpa)なら20枚の500円玉を乗せたときにかかる圧力です。

④ パノストの歴史

*フルファッション(シルク)

19世紀末頃ウィリアム・コットンがフルファッション靴下を発明。フルファッションストッキングとは、フルファッション機で編まれたストッキングで、脚を開いた形に縫い付けられています。編み目を増減させて脚の形に作りあげます。脚の後部に縫い目(シームライン)があります。

*フルファッション(ナイロン)

1935年に米国のデュポン社からナイロンが開発され、今までのシルクからナイロンにかわっていききました。シルクに比べて細く、きれいな色が出しやすいのが特徴です。

*シームレスストッキング

ハイゲージの丸編みK式機ができたことで、フルファッションの縫製線がなくなることからシームレスと呼ばれました。このストッキングは透明感があり、シームを気にせずに着用できる機能性から、一気に多くの人に愛用されるようになりました。

*パノティストッキング(ナイロン100%)

1964年にアンドレ・クレージュがミニサートを発表してからは、ストッキングの延長上にパンティーを付けた形のパノティストッキングが愛用されるようになった。ナイロン100%で透明感は抜群です。

*パノティストッキング(ナイロン100%)

1964年にアンドレ・クレージュがミニサートを発表してからは、ストッキングの延長上にパンティーを付けた形のパノティストッキングが愛用されるようになった。ナイロン100%で透明感は抜群です。

*パノティストッキング(サポートパノスト)

ポリウレタンが登場しサポート糸ができた為、脚にフィットするパノストが登場しました。最初の頃は交編タイプがほとんどで、後にゾッキタイプが登場しました。

*パノティストッキング(着圧パノスト)

サポートの強いパノストが脚の疲れを軽減すると言われることから多くの商品がでてきました。足首の着圧を強くし、ふくらはぎ・太ももと着圧を段階設計することで、ただ、医療用ではないのでむくまないとはっきり言うことはできません。